



日本レーシングサイドカーチーム
2007年マン島 TT レース出場を目指して...
TT オフィスと公道レースサザン 100 のパドックを訪問

報告書

2006年7月。日本で活躍するレーシングサイドカーチーム、コンビネーション RT の渡辺正人氏（ドライバー）吉田秀幸氏（パッセンジャー）の両氏は、公道レースの世界最高峰のマン島 TT レース出場を決意し、2007年でのエントリーを目指し、A Challenge Project Japanese Racing Sidecar Team の名の下にその準備をスタートいたしました。

両氏の申し出を受け、JRSA では、エントリーにいたるすべての準備活動は渡辺 / 吉田両氏の自主的なプランニング及び判断、決断によることを前提として、エントリーの道筋をつけるまでの支援をする運びになりました。

7月9日から15日の約1週間、渡辺 / 吉田両氏と飯島（JRSA）の3名は、マン島で開催される、The Southern 100 Road Race の機を捉えマン島を訪ねました。

訪島の目的は、TT レースオフィスを訪ねて、サイドカーカテゴリーのエントリーの可能性の打診とクリアすべき課題の打合せ、アドバイスを受ける事。

TT レースの上位陣を始め数多くの TT 出場チームがエントリーしている The Southern 100 Road Race のパドックを訪ね、マシンに関する情報、チーム体制についての情報、レース走行に関してのアドバイス等の生の情報を得る事を目的にしました。

その経過を報告書にまとめました。ご一読いただければ幸いです。

出発に関する準備活動

TT&Motorsports Development Manager の Paul Phillips 氏に e:メールにてアポイントメント。

JRSA 会長の矢崎新一氏の推薦状作成

JRSA 英文紹介リーフレット作成

渡辺 / 吉田組のプロフェール作成

過去唯一のマン島 TT 出場 (1976) の熊野正人氏からのアドバイス。別件歓談の際 (JRSA 筒井氏同席) 熊野氏は今年 2006 年の TT レース中、マン島に在島、多くのマン島のレース関係者、デーブホートン (モーターサイクル全般) ニックボディ (サイドカー) 氏等の親交を深めたとお聞きした。



TT スタート地点のダグラスに宿泊

7/9 日曜日 (曇り)

午後 9 時 : 成田 ロンドンヒースロー ガドウェイ空港 経由でマン島ドナルドウェイ空港着。

レンタカーで、TT レーススタート・フィニッシュ地点のある、ダグラスに向かう。

午後 10 時、ダグラスクイーズプロムナード、Rutland Hotel にチェックイン。



Rutland Hotel

霧雨の TT コースを試走

7/10 月曜日 (曇り時々雨)

午前 11 時 日本からのメールにて、アポイントをとった、ポールフィリップス氏を TT オフィスに訪ねる。(TT オフィスはスタート地点のグランドスタンド近くの独立した事務所)

あいにく、急な会議が入っているとので時間が取れず、明日の訪問を約束、秘書の方から 2006 年度のライセンス等の資料をもらい、疑問点等を上げておくようにとの伝達。

午後、TT コースを試走。霧と雨の中での慎重に走行。

マウンテンコース頂上の、ミュージアムは残念ながら平日はクローズ。霧と雨の TT コースを下り、Greg Ny Baa を右折、ダグラスのスタート地点に戻る。



Parliament Square



マウンテンコース頂上



2006TT cChampion Mr.Nlick Crowe



Shellboure フレーム



パドック風景



TT Office Mr.Paul Phillips



2006TT チャンピオン Nick & Hope 組から歓迎

夕刻、今回のマン島行きのための一つでもある SOUTHERN100 観戦及びマシン等の調査に。SOUTHERN100 は 51 年の歴史あるレースで、TT のエントラントが多い事でも、見応えのあるレースで注目されている。

パドックにて、サイドカーチームを訪ねる。

すべてのチームが快くマシン等の紹介や TT コースの走り方等を親切に友好的に対応してくれた。

特に、TT チャンピオンの Nick Crowe & Darren Hope 組 (TT 優勝マシンの DMR HONDA)

アイリッシュチャンピオン及び TT23 位の、Geo Smale (アイルソン HONDA) は、2007 年の出場に関して全面的なアドバイスをする申し出てくれた。

その他、ジェフの紹介で、ウィンドル、シェブロンフレーム等マシンに加えて、ドライバーとパッセンジャーのマシンに対する意見も伺えた。

ジェフからは、MR フレームの MikeRichard 氏を紹介される。氏はフレームビルダー、エンジンチューニングなどを手がけている。

TT オフィスで Poul Phillips 氏とミーティング

7/11 火曜日 午前 11 時

TT オフィス再訪門 ポールフィリップスに面会。氏は、マン島政府の役職で TT 開発マネージメントを担当。メールにて訪問の要点は伝えてあるが、実際お会いして、来春の TT 出場についての可能性を尋ねる。

提出書類

1. ドライバー渡辺 / パッセンジャー吉田氏の経歴
2. JRSA 矢崎会長推薦状。
3. JRSA の紹介

英文書類作成に関しては、F4 チームドイツチーム、ALL5Racing のハラルド・ドレス氏のサポートを受ける)

打合せ事項。

1. ライセンスに関して。
 2. TT 出場までの課題及び問題点
 3. TT コース走行の注意点
1. に関して。

必要ライセンスは、FIM のライセンス及び TT マウンテンコースライセンスの二つのライセンス。FIM については帰国後関係各所と調整の上取得する方向。TT マウンテンコースライセンスは、20 ポンドの支払いで自動取得できるとの事。来春 3 月のエントリー時点で申請。



Mr.Nick Crowe&Geoff Smale

2. に関して。日本から遠路のエントリーに対して、宿舎（ステイ先）の確保、メカニック等のチーム体制等資金面で、地元 UK のチームより軽費がかさむのを心配するとのコメント。

その準備のためにマン島までのレース以外に何度か足を運ばなければならない苦勞等が生じると予想できるけど、大丈夫か？とのコメントを受けた。

3. に関して。2005 年のジャパニーズチャンピオン等の経歴から鑑み、事務局側では OK であるが。レース前にマン島に早めに来島し、ある程度の練習すること。コースを、何回も車、もしくはバイクで試走し、コース感覚を養うこととのアドバイスもらう。

ステイ先、チーム体制づくり、練習等すべてにわたり、マン島にはアドバイスを快くしてくれるチームが有るので、必要であればヘルプをするとのコメントももらう。

後は、メールにて連絡を取り合おうとに事でポール氏と分かれた。



Mr.Klaffenbock と

午後

TT コースを試走をする。

2 日目の試走で、渡辺ドライバーもコースに若干なれる。

途中、スピードガンによる取り締まりもあり、スピードには気をつけるが、TT レースサイドカー下位クラスのラップタイム 80 マイルのシュミレーションを何度も試みる。

夕刻から PM9 時

マシンの情報、チーム体制の情報をえるため

サザン 100 のパドックを訪問。

特に前日快く情報をくれた、TT チャンピオンのニック & ポールの AJ ワークスチームと、アイリッシュチャンピオン (F1_LCR) / TT は 23 位の、ジェフのテントを中心に情報を収集。

チャンピオンマシン、DMR フレーム。ジェフのマシン、アイルソン フレーム。フレームビルダー「アイルソン氏」

その他、ウィンドルフレーム等チームを快く情報開示してもらう。



すべてのマシンが maxton サス



パドック





Roy Hanks / Dave Wells

2006TT4 位上位常連のロイハンクスチームを訪ねる

7/12 水

パッセンジャーの吉田氏（一足先に帰国の途へ）

午後より

Roy Hanks / Dave Wells チーム (2006TT 4 位) をジェフの紹介で訪問。

ロイのマシンは Molyneux Rose フレームにヤマハエンジン。

Roy Hanks / Dave Wells は、日本でも人気の、プレステ 2 のモデルになったチームで、サザン 100 の今回のレースでもオンボードカメラを搭載。

サイドカーレースの進行は、プラティクスが行われたが雨のためレースは中止に。



ジェフから教えを請う渡辺氏

渡辺氏、日本人初のサザン 100 コース走行が決定

チャンピオンのニックとジェフの発案で明日の 14 日、正午のエキジビションで渡辺氏が走行できるようにと、レース事務局に打診。ライセンスは、プロフィールの書類で特別に OK がでた。

本来は、ワールドチャンピオンの、クラッフェンボック氏ドライバー / TT チャンピオンパッセンジャーの組み合わせの、ドリームチームの走行というプログラムだったが、これに加え、アイリッシュチャンピオン・ジェフ / 日本チャンピオン・渡辺正人の組み合わせの 2 台走行という企画に変更されたわけだ。



4 人のチャンピオン / 2 台のドリームチーム走行

7/13 木

サザン 100 レース最終日、昨日とは打って変わって晴天のレース日和。

午前中は、エキジビション走行に備え、ジェフとのコンビネーションの練習。渡辺氏はパッセンジャー未体験で、マインコントロールはジェフにゆだねられた。

コースがバンピーで、左右、前後の加 G に加え、上下に跳ねる公道コースでの動きのアドバイスを渡辺氏が受けた。

しっかり握る。低く構える。動くな (Don't Move) が、レクチャーのポイント。

いよいよ 12 時。ジェフ / 渡辺組につづいて、クラッフェン / ホープ組が公道コースに走り去った。F2 特有のフルスロットのエンジン音を残して、グランドスタンド直線をあっという間に走り去った 2 台。

わずが、2 週であったが、多くの観客の注目をあびていた。

走行後に渡辺氏に観客からサインを求める一コマも。



クラッフェンとニック両チャンピオン



チャンピオンパッセンのホープ



サザン 100 を疾走する Geoff & Watanabe



F2 LCR を駆る Klaffi



F2 LCR(KLAFFI のホームページより)



Ireson Kawasaki



IresonYamaha

クラッフェン氏からの LCR F2 マシン情報

クラッフェン氏は 2005 年より、LCRF2 マシンで、マン島 TT レースに参戦。LCR ショートタイプにもし興味が有れば、連絡を取り合おうとの申し出があり。熊野氏に連絡してくればマシン購入に関しては便宜をはかるとのこと（今年 2006 年の 6 月、TT で熊野氏と会っているとのこと）

来春の再会を心待ちに...との言葉を受けパドックをあとに

本日のレースプログラムは、サイドカーの決勝があり。

レース終了後にキャッスルタウンにて、表彰式、花火等のイベントが開催される。今までの、良くしてくれたお礼を兼ねビールの差し入れ。レーススタート前、早めにパドックへ。

チャンピオン、クロウ&ホープとジェフのテントを訪ね、感謝の意を伝える。来春の再会を心待ちにするとの言葉を受け、レース前なので長居はせずパドックに別れをつける。

コーナーをクリアーするサイドカーに惜しみない拍手

レースプログラムは 15 時からスタート。

観戦場所は、最終コーナー 90 度の右回りカーブの 5 ポンドの椅子席。

レースは無料。スタート地点と、最終コーナーのみ有料。

コーナイン側に 70cm 位のコンクリートの亀裂・溝があり。

イン側に飛び込むマシンは、ガッンと暴れるマシンを腕力で押さえて、次の直線に向けて全開でダッシュ。コーナーから、アクセルオンと前輪の浮き上がりを全身で押さえていかに最高スピードに早く持っていくかがポイント。

コーナーで曲がりきれないマシンは、そのまま真っすぐ住宅地である町中に突入し転倒をさける。まさに公道レースの醍醐味だ。

コーナーでいかにマシンを早く走らす事ではなく、直線から十分なブレーキングを施し、むしろゆっくり確実にコーナーを捉え、抜けたとたん最大限のパワーで次の直線のスピードに乗るかが公道レースの走行スタイルと感じた。

TT では、マンウティンコースに入る手前の市街地ラムージーのコーナーワークは一般のツーリングライダーがコーナーを走るような感覚。サザン 100。コーナーをクリアーしていくマシンに老若男女惜しみない拍手。マン島 TT100 年に積み上げられた文化を観る。



1953WGP チャンピオン Frank Fox 氏



Geoff と
フレームビルダー Mike Richards



Stuart/Paul 組のメカニック氏

世界共通。サイドカーレーサーのあたたかい仲間意識。

7/14 金

9 時ホテル発。

ホテルロビーでクラフェンバッハおよびニック & ホープのスポンサーの AJ ワークス、アレックスと偶然会う。

クラフェン氏とは、偶然にも同じホテルであった。アレックス氏、空港まで、クラフェン氏をおくりに。オーストラリアに帰国との事。

ニューカマーに対して、惜しめない情報提供とエントリーに対して支援の手を差し伸べてくれる TT を走るサイドカー乗りは、例えば日本の F4 レースのパドックを彷彿とさせてくれる。

これは、マン島 100 年の歴史の中で培われた TT 特有のものなのかはわからないが、事務局のポール氏をはじめあたたかく迎えてくれた、サザン 100 エントリーの全サイドカーチームに感謝したい。

帰国後、ドライバーの渡辺氏のもとに、2006 年 TT 及びサザン 100 優勝ドライバー、ニック氏から、自らプライベートで撮影した、TT 全コースのオンボード映像が届いた。

以下、ニック氏からのメールを紹介する。

Hi its nick crowe am sending a copy of (on board TT 2005) how did you enjoy your stay at the isle of man am going to find out if i can get you some fiancail help to come over again in the spring!

can you burn a copy o for your passenger and manager regards nick

以上、2007 年 TT サイドカーチャレンジチーム 渡辺 / 吉田組のエントリーに向けて、第一歩を踏み出しました。

JRSA としての道筋をつけるという役割は果たしたと考えます。

今後、引き続き事務連絡等側面からの支援はするが、2007 年 TT のスタートラインからマシンを走らす事ができるかは、渡辺 / 吉田両氏の努力にかかっていると思う。多くの難題を超える事が必要だが、お二人とそれをサポートする方々の活躍を期待する。

この、報告の内容につきまして質問等は、下記にコンタクトをお願いいたします。

日本レーシングサイドカー事務局

〒192-0153 東京都八王子市西寺方町 658-1

TEL : 0426-52-0403 FAX:042-650-0870

飯島 透

e-mail:jrsa-iijima@dna.gr.jp